

東京高等検察庁インタビュー

# 検察事務官のホンネ

Tさん・甲府地検出身

Sさん・東京地検出身

Kさん・前橋地検出身

Uさん・千葉地検出身

Q1 検察庁を志望した理由は？

Sさん  
捜査一本という感じで業務内容が明確にイメージできたし、専門的な仕事ができると思ったからです。

Kさん  
説明会における庁舎案内など、アットホームな雰囲気に惹かれました◎

Uさん  
大学で勉強した法律を使う仕事の中でも、プロがいるところで働きたいと思ったからです。それと、地元で就職したいと思っていて、検察庁であれば、全国勤務も少なく県内で働けると思ったからです。

Q2 働いてみて感じたギャップは？

Tさん  
就職を機に、地元を離れたこともあり、当初は不安いっぱいでしたが、職場はアットホーム。農家の先輩からとうもろこしを貰ったりしたこともあったな～。。

Sさん  
入庁前は、検察官との接し方に不安を感じていましたが、実際は、優しく、どの人も対等に接してくれました。

Uさん  
検察官から意見を求められることもありますよね。特に検務部門は事務官主体の部門なので、検察庁を支えている感じがしました。

Q3

これまでの仕事で大変だったことは？

どうやって乗り越えましたか？

Tさん  
大きな事件に関わった時はとても忙しくなりますが、検事が気さくな人で、一緒に乗り越えた感じですよ！

Uさん  
被疑者が3人いる事件で、期限当日まで方針が決まっていなくて、当日に急いで取調べや事件処理の準備をしなければいけなかった時、同じ部屋の人が手伝ってくれて、なんとか乗り越えることができました。

Kさん  
私は、人事課の給与業務を担当してた時、“自分が抜けたら終わる”と思ってすごいプレッシャーでした…！でも、係長も優しく、私に信頼を置いて業務を任せてくれたことで一年間頑張れました。

Q 4

### 検察庁の特徴や魅力は？



Kさん

非部制庁※の検察庁は、幅広く業務を経験できますし、何よりアットホームで、先輩たちも何かと気にかけてくれるのは嬉しいですね！



Tさん

部制庁※の検察庁は、扱う事件も多いですし、**裁判員裁判事件**も多く、色んな経験ができるところが魅力ですよ。大変な時も、周囲の人が声をかけてくれますし、人が暖かいところも魅力です。



Sさん



Uさん

Q 5

### 今後の目標や挑戦してみたいことは？



刑事手続もIT化の流れがある中で、検察庁業務、IT業務の両方に精通してる人は中々いないので、**橋渡しになれるような勉強**をしてみたいですね。



Sさん



Uさん

私は、副検事試験の受験も考えているので、まずは**検取**（けんとり）※として、自分で取調べをし、事件処理をするところまでやってみたいです。そこで、自分が捜査に向いているかどうか、見極めたい！



Q 6

### 受験生へ一言！



Kさん

とにかく説明会に足を運んで肌で感じてみて、いいなと思えたところがベストだと思います！

非部制庁の検察庁は、**アットホームで働きやすい！**  
わからないことがあっても、絶対に置いて行かれない。  
ぜひ非部制庁にも足を運んでみてください▶



Tさん



Sさん

第1志望にとらわれすぎずに、説明会で、人や職場の雰囲気を見て決めるのもいいかなと思います。その中で、検察庁にも足を運んでもらえたらうれしいです！

公務員の中でも色々な職種があるので、たくさん悩んでみて選択肢の一つに入れてもらえたら嬉しいです！



Uさん

※部制庁・・・刑事部、公判部などの「部」がある庁（東京、横浜、さいたま、千葉）  
非部制庁・・・「部」がない庁（水戸、宇都宮、前橋、静岡、甲府、長野、新潟）  
検取・・・法務大臣から、検察官の事務を取り扱うことを命ぜられた検察事務官